3-1.　PowerPoint と色彩学の基礎

最終更新　2004.10.11

1. プレゼンテーションの今昔

プレゼンテーションという言葉もすっかり馴染みのある言葉になりました。ここでは、プレゼンテーションとは「人前で自分の主張することや伝えたいことをイラストやグラフ、などを用いて駆使して表現する」ことを表します。

1990 年頃 ~ 2002 年頃にかけて、プレゼンテーション用の機材は劇的に進歩しました。身近な例として学会発表を考えてみましょう。学会発表では 10 分 ~ 15 分程度の時間で研究成果を発表します。発表の内容を伝えるには図やグラフ、数式が必要です。大昔は模造紙を使っていたそうです。その次はスライドを使う時代があったそうです。その次が OHP の時代です。私が知っているのは OHP の時代からです。

私が学会で初めて発表したのは 1991 年のことです。この頃はレイアウト用紙に図や文字を切り貼りして原紙を作成し、それを OHP にコピーした後、OHP 用カラーペンで手書きの文字を書き入れるというのが主流でした。全面的に手書きの OHP を使う人もまだ見られました。

1995 年に Windows95 と Office が発売され PowerPoint が使われるようになり始めました。カラーインクジェットプリンタもこの頃から手頃な値段になりました。OHP はカラー化され、美しいイラストやグラフが OHP を飾るようになりました。白黒とカラーを比べると、カラーの見やすさは圧倒的です。カラーの使い方を習得する必要が生じ、その代わりに糊とハサミによる切り貼りのテクニックは不要になりました。

2000 年頃からプロジェクターの値段が急速な勢いで下がり始めました。2003 年頃に、小学校の教室くらいの部屋で使うプロジェクターが 30 万円以下になりました。レーザープリンターが 1989 年頃に 50 万円だったことや、パソコンも 1985 年頃は 50 万円したことを考えると、十分に研究室では手が届くレベルです。

今では、プレゼンテーションと言えば「プロジェクターとノートパソコンと PowerPoint を用いて行う」のが定番となっています。2004 年の 1 月初めに大阪府立大学で電子情報通信学会の研究会が 2 回行われましたが、約 40 名ほどの発表者の全員がプロジェクタと PowerPoint を使いました。

プロジェクターと OHP には大きな違いがあります。それはプロジェクターでは動きを持ったプレゼンテーションが可能なことです。PowerPoint にはアニメーション機能があります。不必要なことにアニメーションを使うのは感心しませんが、アニメーションを使うことにより説明が分かりやすくなる場合は、手を抜かずにアニメーションを使って下さ